

日	正	日	間
本	し	本	違
語	い	語	い
			や
	Japanese		す
			い
		①	

■ ■ ■ はじめに ■ ■ ■

近年、日本語に関心を持つビジネスパーソンは増えています。より円滑なコミュニケーションツールとしての日本語、正しい日本語への志向はとても喜ばしいものでしょう。では、この日本語について、我々が正しいとするものはいったい何なのでしょう。

実は、「正しい日本語」とはどういうものか、については様々な意見があります。正しい日本語が客観的かつ普遍的なものとして存在するわけではないのです。

相手に抵抗を感じさせないのが正しい言葉づかいであり、とりもなおさず正しい日本語だと考えます。相手次第で、いくとおりもの正しい日本語があり、その場に応じてそれらを適切に使い分けるのが言語運用能力なのです。

つまり、ゆったりとくつろいでいるときのカジュアルな普段着を楽しむ、改まった場面ではフォーマルな服装をするといったように、言葉の使い分けも同じことがいえます。この言葉の使い分けの妙が、おしゃれであり、教養といえるのではないのでしょうか。正しい日本語を使いこなすためには、人との距離感に敏感でなくてはならず、気遣いが必要になるのです。きれいな言葉使いによって品格が上がるのも事実なのでしょう。

ふだん、無意識に使う母語について敏感になることは、とても素敵なことだと思います。この講座が日本語を楽しむきっかけとなれば幸いです。

基礎から学ばなくてはいけない外国語と違い、母国語である日本語は、基本ルールをマスターするだけでも格段に向上します。さあ、一緒に日本語運用能力ブラッシュアップへの一歩を踏み出しましょう。

CONTENTS

間違いやすい日本語・正しい日本語

vol.1 正しい日本語とは

第1課 正しい日本語って何？

Lesson 1	情けは人のためならず	8
Lesson 2	「姑息」の本当の意味とは	10
Lesson 3	「間」は持たないのか、持てないのか	12
Lesson 4	的は「得る」もの？「射る」もの？	14
Lesson 5	「さいさき」に続くのは「良い」か「悪い」か	16
Lesson 6	犬も歩けば棒にあたるの「棒」はどんな棒？	18
Lesson 7	「おざなり」と「なおざり」の覚え方	20
Summary	まとめ	22

第2課 誤って使われがちな慣用表現

Lesson 1	季節に関する間違いやすい言葉	24
Lesson 2	出生率低下と「一姫二太郎」	26
Lesson 3	絆は深まる？ 強まる？	28
Lesson 4	きびすを返すの「きびす」とは	30
Lesson 5	確信犯とはどんな犯人？	32
Lesson 6	解釈を間違いがちな慣用句	34
Lesson 7	物議は呼べない／口車は合わせられない	36
Summary	まとめ	38

第3課 意味を勘違いしがちな言葉・慣用表現

Lesson 1	間違えると失礼になる決まり言葉①	40
Lesson 2	間違えると失礼になる決まり言葉②	42
Lesson 3	気が置けないとは気が「許せる」のか「許せない」のか	44
Lesson 4	「おっとり刀」=「おっとりとした刀」?	46
Lesson 5	晴らすのは雪辱か屈辱か	48
Lesson 6	慣用句の意味を正しく知る①	50
Lesson 7	慣用句の意味を正しく知る②	52
Summary	まとめ	54

第4課 漢字を間違えやすい言葉・慣用表現

Lesson 1	間違いの多い漢字たち	56
Lesson 2	間違いやすい同訓異義語の使い分け	58
Lesson 3	ちょっと変わった読みを持つ漢字	60
Lesson 4	読み方がいくつもある漢字	62
Lesson 5	ひっくり返すと意味が変わる漢字	64
Lesson 6	表現力を豊かにする「物の数え方」	66
Lesson 7	そもそも、音読みと訓読みの違いって?	68
Summary	まとめ	70

第5課 読み方を間違えやすい言葉・慣用表現

Lesson 1	職人の気質は「きしつ」? 「かたぎ」?	72
Lesson 2	漢数字の入っている四字熟語	74
Lesson 3	多彩な読み方のある漢数字	76
Lesson 4	漢字による面白い当て字	78
Lesson 5	豊かな想像力が生み出した植物に関する言葉	80
Lesson 6	意外? 見たまま? 生き物に関する言葉	82
Lesson 7	身体に関する読み書きしにくい漢字	84
Summary	まとめ	86

正しい日本語って何？

▶ **この課の内容・この課で学ぶこと** この課を終えた後、次のことが身につきます。

↑
LEARNING OBJECTIVES

この課では、「正しい日本語とは何だろう」ということを様々なデータと照らし合わせながら考えます。普段、当たり前のように使っていたり、目にしたりしている言葉の、本当の意味や本来の使い方を学んでいきましょう。

- Lesson 1 情けは人のためならず
- Lesson 2 「姑息」の本当の意味とは
- Lesson 3 「間」は持たないのか、持てないのか
- Lesson 4 的は「得る」もの？「射る」もの？
- Lesson 5 「さいさき」に続くのは「良い」か「悪い」か
- Lesson 6 犬も歩けば棒にあたるの「棒」はどんな棒？
- Lesson 7 「おざなり」と「なおざり」の覚え方

▶ **学習スケジュール**

	予定日	実施日		予定日	実施日
Lesson 1	/	/	Lesson 6	/	/
Lesson 2	/	/	Lesson 7	/	/
Lesson 3	/	/			
Lesson 4	/	/			
Lesson 5	/	/			

Lesson 1

情けは人のためならず

「人のためならず」の人ってだれ？

「情けは人のためならず」一度や二度、誰しもが聞いたことのあるこのフレーズ、一体どれが正しい意味なのでしょう。次の選択肢から選んでみてください。

- A 人に情けを掛けておくと、巡り巡って結局は自分のためになる
- B 人に情けを掛けて助けてやることは、結局はその人のためにならない

正しい意味はAの「人に情けを掛けておくと、巡り巡って結局は自分のためになる」です。それでは、いつごろから使われ始めたのでしょうか。少し古い文献ですが、江戸時代に庶民によく読まれた太平記でも「情けは人のためならず」の記述があります。

また、明治になってからの^{ながい かふう}永井荷風の小説にも「情けは人の為ならず今夜一杯飲まして置いたら後日何かの為にもなろうと思直して」とあります。いずれもAの意味で使っているのですね。人に親切にすれば、巡り巡って結局は自分のためになる、「人のためならず」は、「人のためではない＝自分のためだ」という意味です。人に情をかければ自分にも果報がめぐってくる、困ったときには助けてもらえるということを表しているのです。

価値観の変化が言葉の意味も変える

この言葉、みなさんの周りの方に同じ質問をしてみると、案外正解が少ないことに気づきます。毎年、文化庁では言葉に関する調査を行っていますが、「情けは人のためならず」も調査項目の一つです。調査の結果を見てみると、なんと正解は45.8%で、間違っ使用している人は45.7%と、正解と間違いの比率はほぼ同じなのです。

昔の日本では、困ったときにはお互い様、お醤油だって隣の家からちょっと借りてくるなんてことがごくごく普通にあり、助け合い、相互扶助という考え方が大切だと考えられてきました。今の日本ではどうでしょう。独立自尊、自助努力を大切にする風潮は「人に情けを掛けて助けてやることは、結局はその人のためにならない」という意味で考える方が、むしろ自然になってきているのかもしれませんが、日本人の価値観の変化が言葉の意味理解の変化をもたらしているのでしょうか。

では、10年後、20年後この言葉はどのような意味として使われているのでしょうか。もしかしたら、現在は誤った意味とされる「人に情けを掛けて助けてやることは、結局はその人のためにならない」という用法で使う人が8割を超えてしまうかもしれません。そうすると、「正しい」

というものから本来の意味はこうだったというものに変わるのかもしれませんが。

たとえば、「未亡人^{みぼうじん}」という言葉。特に耳新しい言葉ではないと思いますが、もともと「夫と共に死ぬべきなのに、いまだに死ねない私」という謙遜の意味を含む自称だったのです。現在は夫に先に死なれた女性のことを指す言葉として使われます。かつては「彼女は未亡人です」は、非常に失礼な表現になってしまう表現だったのです。

■ そもそも正しい日本語って？

小松英雄という日本語学者は、次のように述べています。

正しい日本語が客観的かつ固定的に存在するわけではない。相手に抵抗を感じさせないのが正しいことばづかいであり、とりもなおさず正しい日本語である。相手しだいで、いくとおりもの正しい日本語があり、その場に応じてそれらを適切に使い分けるのが言語運用能力である。

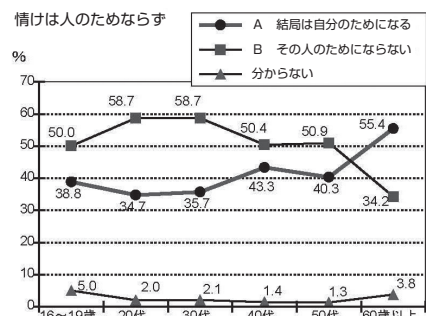
その場に応じた言葉の使い分け、というと難しく感じるかもしれませんが。しかし、ファッションと同じように、その場に適したおしゃれを楽しむと考えると、言葉は面白く、奥の深いものだと感じてもらえるのではないのでしょうか。

第1課では、言葉の間違い、乱れといったものをキーワードにして、正しい日本語とは何だろう、ということを楽しみながら考えていきます。

■ データで見てみよう

前述の文化庁の調査、年齢別に見ると、右のグラフのとおり。60歳以上を除く、どの年代でも、本来の意味ではないB「その人のためにならない」を選んだ人の割合が高く、特に20代と30代では、6割弱がB選んでおり、本来の意味とされるA「結局は自分のためになる」との差が20ポイントを超えています。

一方、60歳以上では、本来の意味とされるA「結局は自分のためになる」を55.4%の人が選んでおり、Aを選んだ人ととの差が20ポイントを超えているのです。



文化庁、平成22年度「国語に関する世論調査」より抜粋

Point 1 「情けは人のためならず」は、相互扶助を大切とした昔の日本人の精神性をあらわす言葉である。

Point 2 日本人の価値観の変化が、言葉の意味理解の変化をもたらすこともある。

Lesson 2 「姑息」の本当の意味とは

■ 日本人の言葉に対する関心度は、とても大きい

この講座を受講の皆さんは、言葉に関心をお持ちであり、日本語の運用能力を上げたいと思っ
ていらる方も多いと思いますが、一般の人はどうなのでしょう。

2011年9月に文化庁から発表された、「国語に関する世論調査」の結果を見ると、日常の言葉遣
いや話し方、文章の書き方など、言葉や言葉の使い方について、どの程度関心があるかを尋ね
ています。

「関心がある」（「非常に関心がある」＋「ある程度関心がある」）・・・ 81.1%、

「関心がない」（「余り関心がない」＋「全く関心がない」）・・・ 18.6%

平成18年度調査と比較すると、「関心がある（計）」は4ポイント増加しており、人々の言葉
に対する関心が高いことがわかります。この「関心がある（計）」と回答した人は、日常の言葉
遣いや話し方（72.8%）、「敬語の使い方」（65.5%）のに関心を持っており、正しい日本語の
運用を志向している人が多いことがわかります。では、「日本語の正しさ」とはなんなのでしょう。

第1課では、例題を解く中で、この点について考えていきましょう。

■ 「姑息なやつめ、懲らしめてやる」は実は誤り

「^{こそく}姑息なやつめ、懲らしめてやる」時代劇で聞いたことのありそうなセリフですが、おそらく
この場合は「ずるがしこい人」や「卑怯な人」という意味で使っているのでしょう。もともと
「^{こそく}姑息」は、根本的に解決するのではなく、一時の間に合わせにすること、すなわち、一時逃れ
の意味なのです。その場だけの対応で済まそうとするのはけしからん、「あいつほど姑息なやつ
はいない」というわけで、人がずるがしこいとか、卑怯といった意味で使われることがあるの
でしょうが、この場合の「姑息」の意味も用法も実は間違っているのです。その場しのぎの対
応ばかりする人に対して、「姑息な手段を使うやつだ」といった使い方が正解なのです。

明治文明開化期の川上音二郎らが流行させた“オッペケペー節”に、こんな一節があります。

「半髪頭（ちょんまげ）をたたいてみれば、^{いんしゅんこそく}因循姑息な音がする。総髪頭（長髪）をたたいて
みれば、王政復古の音がする。ざんざり頭をたたいてみれば、文明開化の音がする」

（ちょんまげ頭をたたいてみれば、旧態然としたものから逃れられずなんとかその場をやり過
ごせばよいといった感じがする。長髪頭をたたいてみると、最新ではないがちょっと前の時代
性を感じさせてくれる。散切り頭をたたいてみると、最新の流行性を感じさせてくれる。）

ここでの“姑息”という言葉は、やり過ごすといった意味なのでしょう。“姑息”と同じような

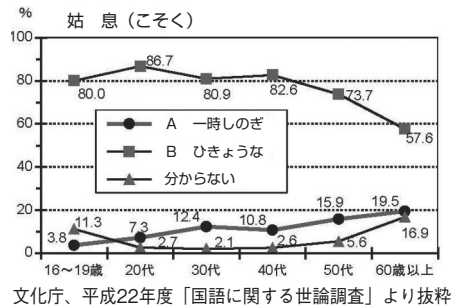
意味では、“その場逃れ”、“その場しのぎ”、“当座逃れ”、“当座しのぎ”、“一時逃れ”、“一時しのぎ”など、見慣れた言葉の他に、「湖塗する」という表現もあります。この湖というのは「ほんやりした」という意味です。

前述の文化庁の調査でも、姑息の意味を聞いています。その結果は

A 「一時しのぎ」という意味……………15.0%

B 「ひきょうな」という意味……………70.9%

本来の意味とされるA[「一時しのぎ」という意味]と答えた人は2割にも満たないのです。一方、本来の意味ではないB[「ひきょうな」という意味]と答えた人が7割を超えていました。



日本語の学習不足による誤用

言葉は時代とともに変化します。しかし、学習不十分による誤用は、話し手が伝えようとしていることが聞き手に正確に伝わりません。それどころか、全く正反対の内容を伝えてしまうこともあります。言語にとって大事なことは正確かつ迅速です。誤用は好ましくないのです。この学習不足による誤用を減らすためには、まず、一人一人が言葉の使い方を勉強することです。社会や家庭でも日本語を勉強する機会を増やすことが大切なのでしょう。また、学習不足による誤用には、容易に認めない姿勢も大事です。

Point 1 姑息の本来の意味は「一時しのぎ」、「一時逃れ」である。

Point 2 学習不十分による誤用は好ましくない。

学習実施日： / /

Lesson 3

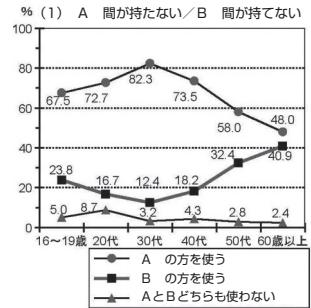
「間」は持たないのか、持てないのか



正しいのはどちら？

Q. 「することや話題がなくなって、時間をもて余すこと」を表現するとき、次のどちらを使いますか。
 A 間が持たない
 B 間が持てない

前述の文化庁の調査ですが、どの年代でもA「間が持たない」を使うと答えた人の割合が多いことがわかります。しかし、本来の言い方とされるのは、B「間が持てない」です。B「間が持てない」を使うと答えた人の割合は、60代以上が4割で、40代以下と比べると高いですが、20～40代では、本来の使い方でないA「間が持たない」を使うと答えた人の割合が、7割を超えており、特に30代では8割以上にものぼりました。



本来は「持つ」＝「維持する、保つ」の可能表現として使っていました。同様の表現で「身が持てない」がありますが、これは江戸時代の文献からも確認できるのです。

Q. 『上司が新入社員の遅刻を[]。』
 A いさめる
 B たしなめる

正解はBです。「いさめる」(諫める／禁める)は、目上の人に不正や欠点を改めるよう忠告するという意味で、「国王に政治を正すようにいさ・める」のように使用します。類語として「^{かんげん}諫言する」があります。「たしな・める」(窘める)は、「いさめる」とは逆で、主に目上の方が目下の人に対してそれはいけないことだと穏やかに注意を与えるという意味です。

したがって、上司が新入社員を注意する際に「いさめる」を使うのは間違いで、正しくは「たしなめる」です。なお「いさめる」「たしなめる」のいずれも厳しいニュアンスはなく、アドバイスする程度で使われる言葉です。不作法などを軽く叱るときに「乱暴な言葉づかいをたしなめる」のように用います。

Q. 『彼女は寸暇を[]練習に励んでいる。』
 A 惜しまず
 B 惜しんで

正解はBです。『寸暇』はわずかなヒマのことを意味します。ほんのちょっとの空き時間も無駄にせず努力するという意味なら、正しいのは『寸暇を惜しんで』の方でしょう。

『苦労をいとわぬ』ことを示す『骨身を惜しまず』と混同してしまいそうですが、『寸暇を惜しまず』だと、『空いた時間を無駄にダラダラ過ごす』といった全く逆の意味になるので気を

付けましょう。

Q. 『無然とした表情』とはどんな表情？

- A 不機嫌な表情
- B がっかりした表情

正解はBの「がっかりした表情」です。「^{ぶぜん}無然」とは本来「失望してぼんやりしている様子、落胆している様子」を指す言葉です。しかし文化庁の調査では、7割以上の人々が「怒りをあらわにしている様子」と回答しています。新聞やニュースの報道などでもこの意味で使われることが圧倒的で、本来の意味はいまや影が薄くなっているようです。



「天地無用」はひっくり返してよいか、よくないか

Q. 段ボール箱に「天地無用」と書かれていたら、どちらの意味でしょうか

- A 上下気にせず、ひっくり返してよい
- B 上下をひっくり返してはいけない

正解はBです。しかし、「^{むよう}無用」を使う言葉に、「心配無用」というのがあります。これは、「心配する必要はない」という意味です。一般に、「無用」というと、この言葉の場合のように、「……の必要はない」と解釈されることが多いので、Aを選んでしまうと、とんでもないことになる危険性もあるのです。無用の意味は次のとおりです。「天地無用」は以下の④の使用例ということになります。

- ①役に立たないこと。使い道のないこと。また、そのさま。無益。「無用な(の)臓器はない」
⇔有用。
- ②いらぬこと。また、そのさま。不要。「ここでは遠慮は無用です」「心配御無用」「問答無用」
- ③用事のないこと。「無用の者立ち入るべからず」
- ④してはいけないということ。禁止。

Point 1 「間が持てない」=することや話題がなくなって、時間をもて余すこと

Point 2 「無然とした表情」は失望してぼんやりしている様子、落胆している様子

Lesson 4 的は「得る」もの？「射る」もの？

「声を荒らげる」の読み方

「荒立てる」「度をこして激しい声で言う」ことをさす言葉としては、江戸期の浄瑠璃・本朝二十四孝にも「いかにいかにと声あららぐれば、両弾正、辞するにおよばず」などの用例があるように「声をあららげる」が「あららぐ」を基本形とした正しい伝統的な言い方なのです。新聞社などの多くは「あららげる」のみを認め、「あらげる」は俗な言い方としています。しかし、声に出して言う場合、「あららげる」より「あらげる」のほうが言いやすいことや、「荒らげる」と漢字で表記すると「あらげる」との読み間違いも重なり、「声をあらげる」と言う人のほうが多くなっています。NHKが平成3年（1991年）に行った全国調査でも、「あららげる」と言うて答えた人が19%にとどまったのに対して、「あらげる」と言うて答えた人が77%にものほりましました。このため、放送でもA「声を荒らげる」[アララゲル]とあわせてB「声を荒らげる」[アラゲル]を使うことも認めるようにしました。

前述の文化庁の最新調査（22年度の調査）でもA「声を荒らげる」／B「声を荒らげる」は、どの年代でも、本来の言い方ではないB「声を荒らげる」を使うて答えた人の割合が多いことが分かっています。30代以上では、B「声を荒らげる」が8割を超えているが、20代以下では7割台の前半となっている。本来の言い方とされるA「声を荒らげる」は、20代で2割強と、他の年代に比べて高いことがわかります。たまたま、この世代の人が「あららげる」という言葉聞く機会が多かったのかもしれませんが、推測の域は出ません。いずれにしろ、漢字表記の発音にひっぱられて言葉自身変化していく例の一つと言えるのかもしれません。

的を得る→的を射る

要点を的確にとらえている、の意味で「的を得ている」という言い方をよく耳にしますが、これは間違った表現です。

「的を射る」は、ものごとの核心や要点を的確にとらえるという意味です。「的」というのは、弓矢の的のことなので、「射る」のであって「得る」ものではありません。従って、「的を射ている」というべきです。

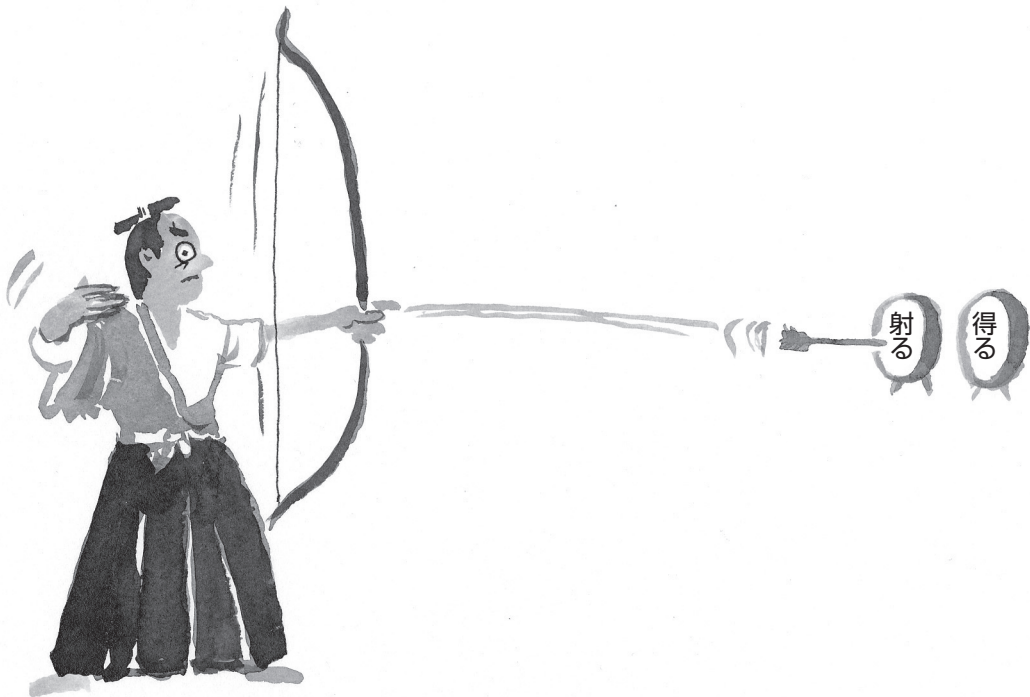
似た表現に「当を得る」という慣用句があり、「的を得る」はこれと混同したものと思われまます。「当を得る」とは、道理にかなっているという意味です。他に「正鵠を射る」がありますが、こちらは「正鵠を得る」ともいうので、かなりややこしい（「正鵠」は弓的的中心にある黒点）です。ね。「射る」が日常語として馴染みが薄いことも、間違える要因として関係しているかもしれまません。それ以外にも「的を入れる」と書き間違える人もいるようなので注意ましよう。

「いさぎがよい」はなぜ誤りなのか

「いさぎがいい」という言い方には2か所の間違いがあります。正しくは「いさぎよい」です。漢字で書くと「潔い」となります。「^{いさぎよ}勇清し」の意からで、「いさぎよい」で一語の形容詞です。それを勘違いして「いさぎ」+「よい」の意味に取り「いさぎがよい」と間違ってしまう場合があるようです。

そもそも「いさぎ」という言葉があるわけではありません。さらに「よい」を口語で「いい」と言い換えたのは、二重の誤りということになります。ここはいさぎよく誤りを認めて、正しい言葉づかいを心がけましょう。

- Point 1** 「度をこして激しい声で言う」ことをさす言葉としては、「声をあらげる」が伝統的な言い方。
Point 2 「的を得ている」という言い方は間違った表現で、「的を射る」が正しい。



学習実施日： / /

Lesson 5

「さいさき」に続くのは「良い」か「悪い」か

■ さいさきが悪い→さいさきがいい

最近、いろいろな所で「さいさきが悪い」はよく使われているようですが、いったいこれは正しい表現なのでしょうか。

「さいさき」は漢字で書くと「幸先」です。あとに続くのは「いい」でなくてはなりません。「幸先」とは、今後を予感させるような兆しのことで、特に、よいことが起こる前兆のことをいうのです。通常は、悪いことに対しては使いません。「さいさきが悪い」という言い方は、本来ありえない表現なのです。

「幸先」という漢字からもわかるように、いいことが起こる前兆という意味があるので「さいさきの悪いスタートを切った」などといった表現は、矛盾した言い方になってしまいます。朝飲んだお茶に茶柱が立っている時、「今日は幸先がいいな」のように使うのが正しいのです。悪いことには使わない表現なので、正しい使い方をしっかり覚えておきましょう。

■ ふりまくのは「愛嬌」？「愛想」？

誰にでも愛想よくふるまうことを「^{あいきょう}愛嬌をふりまく」と言います。よく似た言葉なので、「愛想をふりまく」と言い間違える人が多くいるようです。

「愛想」は、人に接するときの対応の仕方、人あしらのよさのこと、人当たりのいい態度のことを言います。「愛想がいい」「愛想が悪い」とか、ぶっきらぼうな人に対して「まったく愛想のない人だ」というように、態度についていうのであって、振りまくものではないのです。人に対する対応の仕方や顔つきをいい、「愛想笑い」などがあります。

「愛嬌」は、相手を喜ばせるような言葉や振る舞いのことを言います。接する人に好かれるようなやわらかな物腰、世辞の意味もあります。

「愛嬌」と「愛想」は似たような意味ですが、「愛嬌」は、その人にもともと身につけているものをいうことが多く、「愛想」は意識的な態度をいうときに使われます。「ふりまく」のは「愛嬌」、「尽かす」のが「愛想」と覚えておけば間違えないでしょう。

■ 「お愛想」はお願いするものではない

お店でお金を支払うときに「すみません、お愛想してください」というのをよく耳にします。おそらくこのように使う人は多くいるのではないのでしょうか。

しかし、この使い方は正しくありません。本来、「お愛想」とはお店側の人が使う言葉なので